

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第12号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5016

病院内全面禁煙に

健康増進法施行に伴い

10月1日から
阪大病院は10月1日から院内を全面禁煙としました。今年5月に健康増進法が施行され、公共施設における分煙が義務づけられたのを受けた措置です。健康を守るべき病院では分煙より、率先して禁煙にすべきとの考えから、全館を禁煙にすることにしました。

職員にも禁煙教育推進

これまでも患者さんには分煙をお願いして、1階に喫煙場所を設けていましたが、10月1日をもって、閉鎖させていただきます。たばこを吸われる外来患者さまやお見舞いの方は、必ず院外でたばこを消してから病院

に入り、院内では決してたばこを吸わないでください。阪大病院では院内を全面禁煙にするだけでなく、医療従事者として、業務上にも禁煙教育をしていきます。すでに、9月22日には、第5回阪大病院フ

オラムとして、禁煙運動に積極的に取り組むWHO(世界保健機構)から禁煙デー記念メダルも受賞している大阪府立成人病センターの大島明調査部長を講師に招き、「タバコ・コントロールにおける医療機関及び医療従事者の役割について」をテーマに講演していただきました。大島部長はたばこの健康におよぼす悪影響や受動喫煙の危険性について指摘。健康を守るべき医師や看護師らのなかにも喫煙をしている人がかなりおり、

日本医師会や医学関係の学会などで医師や看護師がたばこを吸わないようにする運動が行われていることを紹介されました。今後とも禁煙についてはさまざまな場で徹底していきたいと考えています。

また、循環器内科や呼吸器内科に入院されている喫煙患者さまに対しては、禁煙指導を行っています。喫煙は発がん性や、呼吸機能に悪い影響を及ぼすだけでなく、血管を収縮させ、もろくするなどの

作用もあり、呼吸器疾患や心臓病で入院している患者さまにとっては再発予防のためにも禁煙は重要な「治療」です。

一部の病棟では、看護師が大阪がん予防検診センターで考案された禁煙プログラム「スモークバスターズ」を利用した禁煙指導を開始しました。このプロ

グラムは喫煙者の禁煙したいという潜在意識を利用するセルフヘルプ方式で、禁煙に成功する率が高いとされています。

禁煙に成功された患者さまについては、成功してから1カ月後に「つらい思いをしないか」などの追跡調査をします。そして、本

当に禁煙を続けることができるかなどを検討していきます。今後、阪大病院は禁煙教育についてこのような試みを参考に、前向きに取り組んでいくつもりです。

全面禁煙につきましては、患者さま、ご家族らのご理解とご協力をお願いいたします。



松田病院長から紹介される大阪府立成人病センターの大島明調査部長

フォーラムも開催



大島部長の講演を熱心に聴き入る医師や職員ら

より役立つ情報をお届け 患者さまアンケートを実施

阪大病院ニュース

阪大病院ニュースが発行3周年を迎えたのを機に、阪大病院広報委員会では、患者さまらにどのようによく読まれているかのアンケートを行いました。4割強の方が読まれており、役立つ情報があるとの回答をいただきました。しかし、発行されていることを知らない方や、あまり役に立たないという方もおられました。「もっと新しい治療法の紹介を」などのご意見も多数寄せられました。委員会では、このアンケート結果を参考にしながら、これから患者さまにわかりやすく、役に立つニュースをお届けしていきたいと考えております。

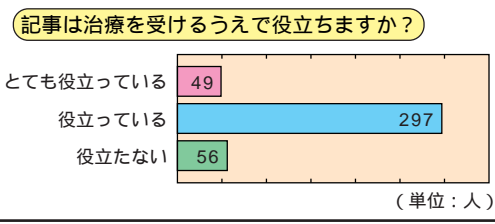
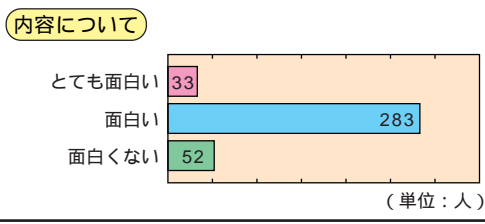
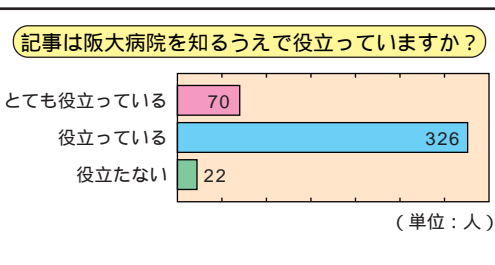
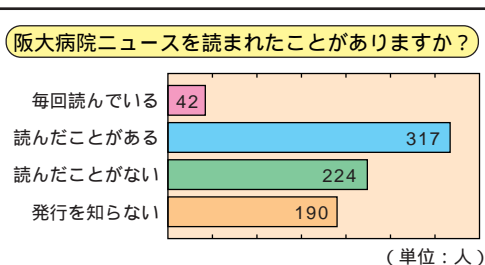
アンケートは2000人にお願ひし、780人から回答がありました。回答者の内訳は外来患者さま343人、入院患者さま332人、付き添いの方98人、お見舞いの方5人、残りは無回答でした。

男性が360人、女性が418人、無回答2人で、年齢別に見ると、60歳代がもっとも多く、次いで50歳代、70歳代、40歳代となっています。

「ニュースを読んだことがある」との回答は、毎回読んでいるも合わせて46%でした。外来と入院で比較してみますと、入院していらっしゃる患者さまの方がよく読まれていました。しかし、「発行を知らない」という方が190人もおられ、「読んだことがない」と合わせると、半数以上になりました。

内容に関しては、4割が面白いと回答され、半数の方が阪大病院を知ろうと役に立った」としておられます。

「治療を受けるうえで役に立ったか」の質問に対しては、44%が「役立つ」とされ、外来と入院別で見ると、外来患者さまの3人に1人、入院患者さまの



保健医療福祉ネットワーカー部

紹介患者さま急増

開設2年半 医療・心理相談も好評

地域医療機関との連携強化と患者さまに対するサービスの充実を（川瀬 一郎部長）の活動が目指して一昨年4月に

本格稼働した保健医療福祉ネットワーカー部（川瀬 一郎部長）の活動が目指して一昨年4月に

専門医の診察日に予約が可能な限り、患者さまの待ち時間を少なくすることもできるからです。

患者さまのニーズに合わせた適切な医療機関との連携を行います。

「安全なお産」 胎児の病気も早期発見

産科・婦人科



超音波診断装置を使った妊婦の診療

阪大病院の産科・婦人科は、「エビデンスに基づいた安全なお産」をモットーに、糖尿病など合併症のあるハイリスクな母親も、胎児に異常が見つかったりも、小児科など他科と連携し、質の高い治療を行い、安全で、母子に

負担がかからない自然に近いお産ができるようにしています。ほとんどのお産はそれほどリスクがあるわけではありませぬ。しかし、治療をしながら出産することもあります。

例えば、肺にリンパ液がたまって、心不全を起こす可能性のある胎児や、尿路閉鎖症の胎児には、胎児の肺や膀胱から子宮腔内に直接、リンパ液や尿を排出できるように管をつけてきました。

胎児側の病気は、超音波診断装置の進歩によって、早期に見つかるようになりました。

親を血液・腫瘍内科などと協力しながら治療をし、自然なお産で元気な赤ちゃんが産まれました。また、自己免疫疾患のある母親は肺の機能が非常に悪くなり、内科や麻酔科などと連携して帝王切開により、無事に出産をしました。

例えは、肺にリンパ液がたまって、心不全を起こす可能性のある胎児や、尿路閉鎖症の胎児には、胎児の肺や膀胱から子宮腔内に直接、リンパ液や尿を排出できるように管をつけてきました。

阪大病院には高度救命救急センターがあり、また、地域の産婦人科などで出産後に母親の出血が止まらないなど異常があったときに、24時間態勢をとっています。

形成外科 手術後に顔面が変形したり、やけどでできたとが残ったりしたと

失われた機能復元 乳房再建にも成果



術前 術後 再建された乳房

一般にもよく知られているのが、皮膚移植です。皮膚移植は必ずしも必要ありません。

医師に求められる「感性」

平均40分、聴き手の思いが吐き出されます。

ホスピタルミニニュース

「早く治りますように」 玄関ホールで七夕コンサート

毎年恒例の七夕コンサートが7月7日、病院エントランスホールで開かれました。エントランスホールはベッドに寝たままや車イスで点滴を着けたままの患者さまでいっぱいになりました。



院内PHSの運用開始

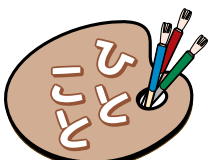
医療スタッフ間の情報伝達をより迅速確実なものとするため、PHS電話システムを導入することになりました。



質問箱

Q 阪大病院に紹介状を持たずに初診でかかった場合、なぜ2,625円が必要なのですか。

A この制度は、身近な診療所などの「かかりつけ医」と、大きな病院との役割を分担することを目的とした医療制度に基づき設けられています。



NP法人 ささえあい医療 人権センター COML理事長 辻本 好子

医師に求められる「感性」

「どう向き合ってくれたか？」というコミュニケーションの問題。